NEWS RELEASE

【配 布 先】文部科学記者会、科学記者会、府中市政記者クラブ

国立大学法人 東京農工大学
Tokyo University of Agriculture and Technology

報道関係者　各位

2026 年 11 月 9 日
国立大学法人東京農工大学

日本各地の手織りの技と工夫を伝える
縮尺模型「日本の手織機」を 21 年ぶりに展示

東京農工大学科学博物館企画展 11 月 11 日から開催

東京農工大学科学博物館は、創基 140 周年記念展示として、企画展「テオリキモケイ、ふたたび―縮尺模型『日本の手織機』コレクション」を 2026 年 11 月 11 日（水）から 2027 年 6 月 26 日（土）まで開催します。旧繊維博物館時代の 2005 年開催以来、21 年ぶりとなる本展では、元東京都立繊維試験場研究員の重松成二氏（1926–2002）が日本各地の手織機を調査し、その構造を縮尺 15/100 で記録した 60 点の模型を紹介します。

同じ「織る」道具でも、糸の張り方や織り手の姿勢、踏木・綜絖の仕組みは、地域や織物によって異なります。本展では、日本各地の手織機模型を比較しながら、手織りの技と工夫を紹介します。

また、模型コレクションの撮影は、本学の博物館学芸員養成課程の実習として、2022 年度から学生が進めてきました。2025 年度には文化庁「Innovate MUSEUM 事業」に採択され、追加撮影や資料の調査・点検、メタデータ整備、関連する実物手織機の調査を実施しました。これらの成果をもとに、資料情報を 2026 年 3 月にジャパンサーチで公開しています。

模型だからこそ見えてくる手織機の構造や、地域ごとに受け継がれてきた織りの知恵と工夫を、ぜひ会場でご覧ください。

【企画展概要】

展覧会名：テオリキモケイ、ふたたび―縮尺模型「日本の手織機」コレクション
会期：2026 年 11 月 11 日（水）～2027 年 6 月 26 日（土）
会場：東京農工大学科学博物館 1 階企画展示室
開館時間：10:00～17:00（入館は 16:00 まで）
休館日：日曜・月曜・祝日、5 月 31 日（大学創立記念日）、冬季特別休館等
入館料：無料
関連イベント：ギャラリートーク　2027 年 2 月 2 日（火）11:30～12:00／14:00～14:30

ジャパンサーチ　縮尺模型「日本の手織機」コレクション
https://jpsearch.go.jp/database/TUAT_teorikimokei

※展示資料は一部入れ替えを行う可能性がございます。
※関連イベント等の最新情報は、東京農工大学科学博物館公式サイトをご確認ください。

本件に関する問い合わせ先

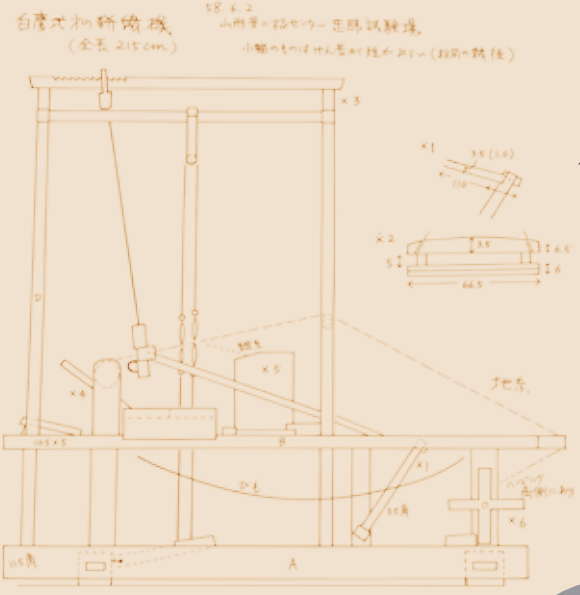
東京農工大学科学博物館
特任助教　齊藤 有里加
TEL：042-388-7163　E-mail：kahaku@cc.tuat.ac.jp
184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16
東京農工大学科学博物館ホームページ http://www.tuat-museum.org/

東京農工大学科学博物館　創基 140 周年記念展示

テオリキモケイ、ふたたび

縮尺模型「日本の手織機」コレクション

小さな模型が語る、日本各地の手織りの技と工夫。



重松成二氏作成設計図面



高機
新潟県十日町｜絹織物



腰機
岩手県盛岡市｜麻織物



高機
奈良県月ヶ瀬村地方｜奈良晒



高機
鳥取県弓浜半島｜弓浜絣



腰機
福島県会津若松市｜会津木綿



高機
沖縄県｜読谷山花織・ミンサー



高機（廐型）
東京都八王子｜素材：絹織物



高機
三重県松阪市地方｜松阪木綿



縦型
大阪府堺市｜堺緞通

2026 年 11 月 11 日［水］
― 2027 年 6 月 26 日［土］

東京農工大学科学博物館　1 階企画展示室

10:00–17:00（入館は 16:00 まで）　**入館無料**

休館日：日曜・月曜・祝日・5 月 31 日（創立記念日）・その他冬季特別休館等あり
臨時休館等の最新情報は公式サイトをご確認ください。

ギャラリートーク
※その他関連イベントは HP でお知らせいたします

2027 年 2 月 2 日（火）
11：30 ～ 12：00
14：00 ～ 14：30

Nature and Science Museum 東京農工大学 科学博物館
TUAT Tokyo University of Agriculture and Technology



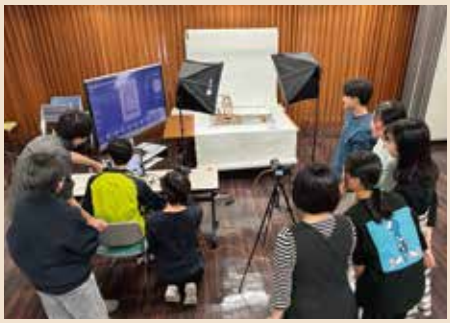
手織機模型を製作する重松成二氏
（2005 年当館企画展パネルより）

縮尺模型「日本の手織機」コレクション

本展は、元東京都立繊維試験場研究員 重松成二氏（1926–2002）が日本各地の手織機を調査し、その構造を縮尺 15/100 で記録した「日本の手織機」コレクションを、2005 年以来 21 年ぶりに展示するものです。

本学の博物館学芸員養成課程の実習において、2022 年度から学生と模型の撮影を進め、2025 年度には文化庁「Innovate MUSEUM 事業」の採択を受けて、追加撮影、資料の調査・点検、メタデータ整備、関連する実物手織機の調査を実施しました。

これらの調査結果をもとに、2026 年 3 月 3 日にジャパンサーチで資料情報を公開しました。



文化庁「Innovate MUSEUM 事業」（2025）による
学生参加のデジタル化プロジェクト

模型に残された、各地の織り　※展示資料は一部入れ替えを行う可能性がございます



腰織（脚付）
茨城県結城市｜結城紬
1983 年



高機
東京都武蔵村山市地方｜村山大島紬
1982 年



腰機（水平型）
新潟県小千谷地方｜越後縮
1983 年



高機（傾斜型）
石川県白峰村地方｜牛首紬
1986 年



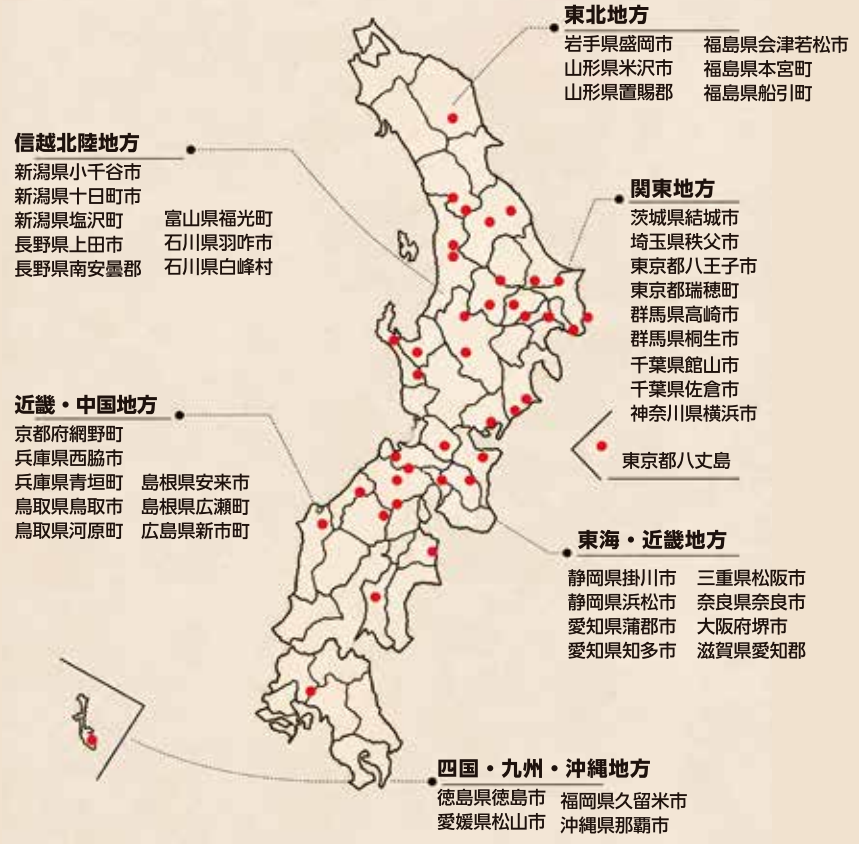
腰機
徳島県木頭村地方｜太布
1987 年



空引機
『止戈枢要』をもとに復元
1820 年頃

縮尺模型「日本の手織機」のモデル機所在地

（地名は重松氏調査当時）



同じ「織る」道具でも、糸の張り方や織り手の姿勢、踏木・綜絖の仕組みは一様ではありません。模型を見比べることで、地域と織物に応じた工夫が見えてきます。

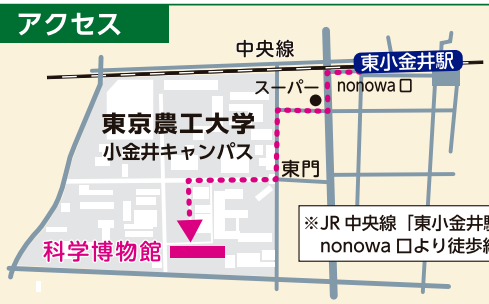
◉ 収集資料をウェブで見る

ジャパンサーチ
日本の手織り機コレクション

アクセスは
こちらから⬇



アクセス



公式 X　公式 HP

東京都小金井市中町 2-24-16
東京農工大学　小金井キャンパス内
TEL 042-388-7163